

SOC株式会社
代表取締役社長朝倉 幹雄
さん(63歳)

20代のヤル気を取り戻す

20代社員の仕事への情熱を取り戻そうと努力しているIT企業がある。北海道のSOCだ。社員のうち7割が20代だという同社は、社員が辞めたい会社を目指し、10年連続増収を続けている。この成長の裏にはどんな仕掛けがあるのか、代表取締役社長の朝倉幹雄さんに聞いた。

「豊創プロジェクト」の発足

「空気が停滞して濁るのは、かき混ぜないからだと思いますし、水が流れないのは流れ出る出口をきちんと用意したり、準備しないからだと思います。そういう努力を怠っておきながら『若い人が辞めるのは仕方がない』などと言うのは決して私は正しいことだとは思っていません」と若い社員への想いを語る朝倉さん。同社では社内を活気づけるため、2007年3月より「豊かな就業生活を創造するプロジェクト」（通称「豊創プロジェクト」）を立ち上げた。

このプロジェクトでは、社内公募によって選ばれた20名ほどの社員と役員・幹部が同じテーブルに着き、社内アンケ

ートやヒアリングの結果を持ち寄って、働き方に関する問題点を洗い出す。そして月1回の会議の中で意見を出し合い改善策を検討していく。「施策の実施状況はまだまだ満足できるレベルとはいえませんが、徐々に社員の中に浸透し、自らが率先して変わっていくという気運が高まりつつあるように感じられます」と朝倉さん。

悩み多き20代の声を積極的に吸い上げる

「当社は、IT関連会社であり、その業界特性から中堅社員の位置付けが一般的な企業よりも若年化している傾向があります。当社では中堅社員は20代後半と

いうイメージです。そしてその年代を中心とする社員が最も多く不安や悩みを抱えていることが豊創プロジェクトで実施した『就業生活アンケート』より明らかになりました」。20代後半は今後会社でリーダー役を担っていく重要な人材だ。彼らの悩みを和らげる方法として、社内カウンセラー設置や経営トップに直接コンタクトが取れるホットラインを設置する予定だという。カッチリとした体制だけでなく、人間的なアプローチも用意するところがユニークだ。

毎週水曜ノー残業デー。実行率は50%

同社では、毎週水曜日に全社をあげてノー残業デーを実施している。これも豊創プロジェクトが発案し、今年2月の年度末全体会議にて、採択されたものだという。

「プロジェクトの実施策が具体的に提示されたのが初めてのことでしたので、戸惑いや反対意見が少なからず出ました。たとえば『社外で取引先とチームを組んで働いているので、自分たちだけが定時退社するのはおかしい』『定時退社日以外の日の残業が増えるのではないか』